通信全覧初編

類輯二

五十九

和書門 類 三三〇〇五號 二〇六函 一架 三〇三冊

内閣文庫 和書 類 三三〇〇五號 三〇三冊 一八四函 一八架 (二六一)

内閣文庫
番號 和 33005
冊數 303 (62)
函號 184 271

共百

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館 National Archives of Japan

類輯巻之二

米條約交換
亞國之部 元

午七月十六日備後守殿上ル

亞米利加國ゟ條約為取替之節
送迎船之御備中上ル書付

條約為取替として亞米利加國ゟ使節渡来之先例も有之
を初ゟ遠方航海之事ニ而彼方ゟ大船を以送迎
可仕与兼而申立置候ニ付此度軍艦を以彼條約調
判之砌右使節今般渡来之節ハ蒸気船を以

本國ゟ申越候者先月十九日ゟ二十日之内毎
下田迄差越候趣横文字書中ニ見え
八月下旬ゟ延引いたし十一月頃迄ニ者満國出帆
手續ニ成り申候而右之迄ニ而開港之期限宿迄ニ
不都合ニも可有之候由申出候右往返之日數不都合
之處往返之凡四拾日余之掛り可申との事ニ候右
所ニ而之送迎船等之儀期限之儀十一月ゟ先
誠ニ猶亦申出候下田官吏迄ニ御達ニ相成
候旨書翰案文相添此段申上候以上

年七月

水野筑後守
永井玄蕃頭
井上信濃守
堀織部正
岩瀬肥後守

覚書稿案

トウンセントハルリスに

此度之條約本書ワシントンに於て為取替候ニ付
日本人初而航海之儀ニ付米國之軍艦ニて
送迎頼入度候間來春ニ至り何月比右船ニ差
越候様貴國政府へ御報知有之候様致度右拙陳申
候謹言

月　日

吉田備後守

間部下総守

午十二月十四日差出

第廿四号

千八百五十八年第十二月十六日下田ニ於て

外国事務執政

太田備後守

間部下総守　各閣下ニ呈ス

久世大和守

貴国の使節を合衆国ニ送らんかためニ亜

墨利加の船一隻を要とし給へるよし文書記

しあるに千八百五十八年第八月廿七日附の貴
翰にて余懇に蔵ましたる述を疾く承之とし国
事をなすへき為めなりき答ある事昔余閣下に満足
せる国書をたまはんとしてコムモドル・タットナル
の来着を待てり。
余今にて彼の来着を暫時も待兼ぬる故
に余再度を我政府に書送りし又コムモドルにも
書送りして閣下の請に応し其国の使節を
送るため然るに大急氣船一隻を右コムモドルの
指揮にて送り届さんことを請求せり
此書翰を余長崎より支那に送り出さん
ためにヤン・ハ・ドンクル、キュルシュス君に封して
遣せり
右キュルシュス君への封物を別便を以て江戸
より長崎まて七日にて未達する様にせら
れん事を閣下に希ふ
右を我政府にも又余にも関係ある所の事
なるか故に余閣下の我請求に応し給ふへ

右條約ニ支文なし爲白

トウンセントハルリス手記

午十二月十七日ニ於

亞墨利加合衆國全權兼

コンシユルセネラール

トウンセントハルリス江

去ル十四日之書翰今十五日落手いたし彼

日ノ月相當ル貴国ニ而便ニ付形ニ渡

其家來之者ニ於而許ニ而書翰差

ニ及候處ニ而右コモドールテツトナルニ而言を

當之候處此度ハ全ク最初之不存在

事件も有之候而亜墨利加テツトナルの指揮

形ニ而御家御書翰を以大形無之形と

存候様ニ相成ニ而其筋之者共ニ而及其事

勢ニ付長崎ニ而支那人ニ申達ヒントニクルキユルシユス

ニ而ニ申上候ニ付而者此方ニ而ハ取扱

手急便ニ而御用長崎奉行ニ申付候処右ニ付

件ニ付高分ニ而御沙汰ニ付評判之候ニ付是迄之次

第ニ而相成候評議中ニ而も申上候趣

ドンクルキユルシユスニ而も　其後　先年事情ハ諸

並ニ西洋所ニ設　楠井上信濃守ニ委ね

其他ニ而も取扱候ニ付其形ニ而も勤相務

様ニ申渡候御取扱申上候ニ付申上候

御請申上候御下知ニ付大坂ニ而相達候

ニ付御達候而ハ不相成候様ニ御座候

安政五午年十月十七日

太田備後守

午十二月廿八日ニ達

亞米利加合衆國全権兼コン
シユルゼ子ラール
トウンセントハルリスより

十二月廿四日之書翰並添書今持参ニ付今
同月十五日於出府之老中差出し
和蘭官人トンクルキユルシユスより書翰を
延期之儀申立候付御掛事ニ而申置

国政江戸表ニ而取扱列侯同様ニ而
御沙汰有之候処、猶御評議之上篤与御勘考被成候
江戸表江相達候ニ付、又猶又御沙汰之趣
被仰下候書面之通ニ付井上信濃守江も
委細尚又演説ニ可及候間、御聞之上可申上候
尤貴様迄相達候趣ハ何分不取敢申上候様之通
被成御承知候事ニ而御評議之上御賢慮之上急度
御用之上ハ双方申談候上否哉之段
被申越候様以書付申上候 御頼二ケ

安政五午年十一月廿八日
太田備後守

本文十一月廿四日之書翰敬决

十二月三日
未十一月廿九日差出

第一号

千八百五十九年第一月六日下田に於て
外国事務執政等々々
下田備後守閣下に呈す
余閣下の書翰并落手せられたることを告く去
書中ゆゑ長崎に在るコイ・ハ・ドンクル・キュルシュス
君に遣る人に書翰を閣下江戸より別に
飛脚をもて〳〵送達するなと并余に報し給

ひあり
余甚厚意を以て為せる我か謝辞を閣下に述ふ
閣下は條約本書交換のためんに支那に
書翰を遣るを延引なし居らるゝや否を問
ひ給ふ成り
余は此事に答へて決して御遣せらるゝと
何ふまましき事は云なり敬白

トウンセントハルリス手記

第壱

未
二月朔日永井玄蕃頭本陣おゐて永井ニ之書添井上信濃守
堀織部正加藤正之進立合ニ而談判之内

一 昨日噂有之候華盛頓江使節延引之儀ハ如何哉

一 右條約本書取替之儀ハ調判之日より一年之内又ハ一年と有之

然ル上ハ婚姻ハ延期いたし度候と之趣
申談候処最早条約書をも大統領
調印相済候上三ヶ月程之内ニも使節
可参筈と待居候処右理ニ任セ私
取計ニ而延引いたし候而者何故延姻ニ
難相成候哉と一應御定之東國政府より
尋之変可申哉且只今使節不
参候迄頓着聊相包ミ安心いたし候而申
参候ハヽ得と承知来之次第ニ而理

一 談東政府ニ可申出候旨集之候由
可然哉
一 先達而儀禮事省下田之趣ニ而談候ニ通り
京師ニ而も左之有之外ニ頓着無之候
一 京師ニ而は世之趣ニ如何之次第ニ候哉
一 此節掛ケ端等此上之趣ニ有之可申哉
此儀ニ付外國之使節ニ差出候ニ而も何
可然之事ニ候
一 外國之使節参上候節ニ何故

一 不承知ニ候哉

一 右ニ無之而ハ通商開関之座解無之ハ
場合有之而殊ニ不都合ニ而も上京中ニ為
返て条約迄ニ相成候ハ居合ハ場合ニハ

一 条約ニて条ニ居合之上ハ右ニ相成
有之ハ外国ニ使節差出し候義ハ
承知可有之答ニハ

一 右ニ而ハ十分承知之様子ニ而ハ同法
節使節差出し之義ハ有之ハ相成候ハ又ハ兵庫

可被痛心ハ無之延期之義中ニ而ハ義有之ニハ

一 右ニ国帝ニ而ハ不承知之様子ニ付
数年京師ニ上下居合等無之義ニハ

一 京師ニ上下ニ而不承知ニ候ハ五大洲
之内ニ而も請ニ而ハ思召候哉

一 在ハ其七月四日神奈川ハ開港不
承知之義有之而茂節ニ付同所ハ
ハ候哉

一 此度ニ而最早中ハ延ニ而ハ浮之ニ兵庫大坂

も開き両國の為ニ廣まり候様存合並
此段承知有之候
一 江戸表ニミニストルを差置候義も是又
如何哉
一 ミニストル差置候ハヽ
一 何頃迄延期と思召候哉
九月中之積ニ候
一 右期限ニ本条約為取替候哉又ハ
使節之出帆日限ニ候哉

一 出帆之日限ニ候
一 右日限ハ英國其外ニ而以前江戸ニ為
為取替候積之事ニ而最初取極ル
両國之有之候得共外ニ差延候為取
替候事ニ未決候
取替せ候を（後を）決而不都合ニ候ハヽ江戸ニ而取替せ候
而ハ宜候
一 日本ニ而批准合衆國ニ而条約ハ
其國ニ而必要之期限よりも延候而も

外国江対し栄誉を失ひ恥辱を
申候

一 亜国江恥を与へ候とも此方ニ於而延引申
候ハゝ実ニ無余儀訳有之前申入候
通之次第ニ候

一 昨日於御評中立候通和義是ニ於
日本取斗候次第大統領ニ於別
而称し居候変更延引無余
候而者実以不都合ニ而和義不取留

義ニ而申立候事ニ政府ニ於而者難
察し無之迷惑仕候

一 差許候而迷惑之様ニ義候ハゝ元とて
次第此方ゟ政府江書面ニ而可申入候

一 右延引致成候而ハ相手之条約面破
之姿ニ而無中ニ取扱候ハゝ和而不可
有之当申候旨右候而ハ論無之事ニ候

一 条約取去之姉延引致候ハゝ当国於而栄誉を失
候得共何程ニ於而取去候得ハ姉限

通詞申立候ハ

一 只今ヨリ本国ニ申遣シ候上本国ゟ
申越ノ趣ニ而手続ニ而ハ迚も間ニ合不申
此段尚勘考之上此上ハ陳述致し度候ハ

第三

去六月廿五日於神奈川宿本陣永井玄蕃頭井上信濃守
堀織部正加藤正三郎英国使節江対話之内

一 使節延期之義ニ付望之任之人揃而可承ハ

一 此度渡来之船ニ而御返翰船ニ付御受
度次第何時ニ而も御返翰ニ而も以而
御出立之事ニ哉伺度候ハ

一 萬端之事ハ有之候延期之義申談候通ニ候

一 無之中去ル通私ゟハ議之為候中止ニ而平和方ゟも御勘弁爲ニ而御談も更ニ無之候

一 先達而長崎ニ而支那便運船之義ニ而申遣候由之書翰差出シ節延期之義申上候上も英之運船差ニ付双方不都合之義可有之候備後守ゟ書翰差出し申上置候右も不都合之義無之候返書差出シ候ニ付此方様ゟも返書最早承知之事ニ存居候

一 書翰之為ニ而先般ハ差遣候ニ付義ニ付無之候書翰ニ而差出シ不申渡来候節有之候

一 下田於而信濃守殿談判之通リ条約之条并長崎書翰遅延之義未届ニ付尚取ニ付延期之談判之一条約ニ基可被申上旨申出候

一 右御渡ニ付出張被成可被仰哉旨申立候ニ付
一ト月只今出張被成候儀ニ者有之ニ付延期
之日限何頃と申候ニ付
一 先日申候通日本ニ而九月中迄延候ニ付
続之談判ニ付
一 条約ニ添書持参三ヶ条有之候未
一ヶ條ハ日本ニ而使節華盛頓着
本条約書取替済候而何れ之
国ニ而使節不差遣事ニ被成候ニ付

一 華盛頓ニ而本条約為取替書御渡ニ付義ハ
先方ニ而も承知可申哉ニ付
一 大切之義ニ付御渡ニ付速ニ可申上ニ付
一 来二ヶ条者亜米利加ニ而者最早
本条約済書出来居ニ付御国ニ而
本条約書二通り出来一通りハ私
手元ニ差置一通御渡華盛頓ニ持参
罷帰候而取替書御渡ニ付承知之上
是迄私共預り一通者御渡済之積ニ

返上可仕候

一 洋中異変等ニ而為メ控ニ積置候而弐

一 合衆國ハ日本と和親条約並交易
条約取結候而和親之為右相済候上魯
西亜英吉利仏朗西等条約取結候も
右条約書江戸於而為取替之有之使
節ワシントン江着之五六月ゟ以前外國
ニ而為取替相済候ハ右条約書取
替場遅速之寄國ニ而両月ニ相成候

和合候ハゝ取替書取替之義法ニ有之候
然ル処亜米利加之方ニ而ハ如何ニ候
此方ニ而差支候ハ彼國之方ニ而ハ差支候而
為メ不取替も相延候而當國ニ而面目を
失ひ候而は彼是元ニ而御渡しニ相成候ハゝ始
彼是度無之義ニ候ハゝ華盛頓ニ而本条以一覧之上
返上可仕候別ニ写之義御渡被置候ハゝ返上可仕候

一 右和親条約書各國取替書前ニ而御許
手元江御渡被下置候様仕度

内閣文庫

国立公文書館 National Archives of Japan

一　此通ニ御座候右本条約為取替
之旨無拠次第ニ付而ハ國ニ而両国
承候事
一　三ヶ条之趣意ニ条約取替之節ニ猶又
上日本ニ而國中ニ而違候ハヽ戦条約
文中ニ有之趣ニ而魯西亜英吉利
等七月一日と有之亜米利加ハ七月
四日と有之候得共國中ニ而御觸示
等亜米利加之義も七月一日ゟ御示し

有之度候
一　以来日本之者一人ニ而も宗旨ニ付
厳科ニ御處置有之度候
一　右ニ日本人ニ而も外國人ニ而も
一　一体之人之[illegible]ニ而も
一　宗旨之義ニ付延期之事ニ関係無之候
一　条約添書之義ニ付心付之廉申上候
一　先達而堀田備中守様ニ而御談判
中ニ候儀申候様ニ御取計可申上有之

宗門ニ付候而ハ外之國ニ日本ト同様ニ申候由申上
何連之國ニ而も何連之宗旨を信仰
為致候而ハ其者之帰依信仰ニ任せ候儀
國ニ而進メ候道理有之て無御座候 宗
旨を妨候事ハ指ニ而其國ニ而進メ候而害ニ
相成魯西亜美佛連ハ信心ニ任せ候
之心ニ任セ候ハ伊斯波示亜、ホルトガル、イタ
リヤ等ニ而宗旨ニ制禁有之て當時
貴國ニ而相成候儀ハ迚制禁ニ而宗旨
を信仰致候者ハ死刑ニ被行候由ニ而
右三ヶ國ニ而宗旨一派ニ而他之宗門
を除候者を官ニ登候儀無御座
尚又年々押々ニ致来申候ハ日本ニ而も
各國と条約取結相成候ニ付日本
ニ而英名世界ニ輝き清浄ニ有之て
儀一ツニ而除之有之一旦除候ニ而ハ二百
年来ニ而漸く之儘ニ而差置候
明除ニ相成居中ニ而私義日本ニ

居候時ニハ咎も請候義無之候
此国法之中一ツの力を失ひ候ハ證拠
有之私考ニ而ハ兎角賢良之日本
政府の為メニ日本之法を立通し
無之義最早是ニ而相済申間敷
法を法と立置され候得共名のミに
而不相用義を和国ニ而ハ死法と
唱申候死法今ニ立派ニ名ニ相残
居候使節延期之儀相成候と私

承り候ハ大君ニ自分之了見を以心得
ニ而承知置候義も有之私日本ニ而
承り候ハ広く大統領より私を遣し
宜心得候様申付過日此件申上候通
私ニ厚き賞与を受候得共一旦使
節を此廷ニ相勤候ニ付而ハ私も又人
之身の為メ自分を置キ此国之交際
而已相拘合衆国之恥辱ニ相成候ハ
尤只今申上候通り数々法を立置国之

盛衰ニ拘リ重大之事ニ而議論
之儀ハ中山宮篤ト御熟慮有之候
得共段ニ且ツ九月ニ至リ御延引御発
行ニ相成華盛頓府ニ冬御着ニ
可相成余程寒気強ク江戸ニ
御住居ニ而方ニ御凌難キ候

一 政府之御都合ニ而九月ト申ハ御付候
今寒暑如何相ト成ヘ辺之處ハ不申ハ

一 時候宜キ節御越之方御都合
宜ト存候義ニ申上ハ他ノ國ヨリ
使節ヲ以御越之世ハ蒸気船ニ不可ニ出

一 通リニ而ハ扱ヒ被申候御當國ニ而も
未格別御懸念被成之義ニ付蒸気船ヲ出
候義ハ御無用

一 全ク出府之厚心配致シ蒸気船ヲ持ニ
相成來議論致シ置候處

一 右ハ私義勤ニ而御無之得ハ又楽ニ而
存候畢竟私之意ニ願ク度ト存

日本ニ而是迄未熟之義ニ付私共ハ月ニ
取面目ニ相成候ハ最早命ニ先キハ
無之而何卒此上面目を不失招
法度今日中ニ其義出来候ハヽ大慶ニ候
喜悦可仕私共ハ安心ニ而帰帆
右相取用無之候ハヽ面目を失ひ申候

一 右之事ニ候

一 其中ハ宗門之義ニ而国初以来之定
ニ而右変革之義ニ付決して難承候

一 私共ニ而答ニ不及候ニ付日本ニ而答
可申候

一 延期之義ニ付願書ニ而ケ条中ニ条約並
借候義ニ付日本国中ニ而未触可申候

一 四ケ条之宗門之事ハ書面ニ而五ケ
条之日本使節ニ而何月幾日出帆
と相認有之候招請右五ケ条ニ而
相受ハ私共可申上候

一 右ケ条中外之義ニ者委細承知致度候

四ヶ条目宗門ニ而第一ニ存候ハ二百年来ニ而
外勢之変り候とも一体之法度有之耶
蘇宗ハ不容と申候義是ニ而制度ニ有
外勢之変り候とも右法度ハ廃し候義之
離来候已ニ他宗ハ容れ不申候義之筋
國ニも知れ居候處此ヶ条之条約ニ載セ、
無之候ハ直ニ堀田備中守殿承話ニ而
第一之件ハ備中守ニ候義も有之候ハ
一 此法ニ而立方之継合ニ候ハ障とも

条約ニ書載候義ハ御申上候義之決定
無之てハ
一 日本ニ而制度之耶蘇宗ハ不容と
申法ニ候哉
一 法度之人の為ニ而之事ニ而是迄之不取立来候
宗旨之不宜と申し而法度中ニ而一ヶ条ニ
廃し候義之筋ニ候
一 此義ニ付而之尚委細之申候
前申候ハ五ヶ条之内宗旨廃し候義之事人

右雑書識候

一 右五ヶ条中ニ有之四ヶ条目ハ其ノ書籍
廃止申候義ニ無之候ハ

一 其ニ付当申上候 宗旨ニ付法を以立
様ニ成分者を以人ニハ哉 右ハ基利斯
督ヲ御禁止ニ而 許ル者有之ヲ以イス、
パニヤ、ホルトガル 日本を併呑いたし
可申と企ル故ニ 厳ニ御国ニ有之候義
不可有之 御併ニ当時ニ付増候

宰領之様法ハ人ニ国を奪ハ
掠之義有之候 欧羅巴州中ニ
於而ハ二百年来重宰有テ至
以前ニ基利斯督宗ニ入ル者ハ
死刑ニ行ハれ候得共 当時者畏
利旁ニ於ル古 指ニ候義ニ無之候 宗
法ニ率ニ付甲斐ニ家依之心ニ任セ
候義ニ御座候

一 日本ニ而ハ神儒仏之三宗旨有之

亜米利加英吉利より二十ヶ年前ニて候得共
宗旨之事者更ニ混雑いたし候ニ付
右一条を能々承知いたし候而ハ
定メ候大変可有之哉と可申極言ハゞ伊
斯波尓亜ニ而他宗信仰之者共為ニ本国
人死刑ニ逢候得共世界之國
を敵といたし申候、尤彼古法ニ依り近時
勢ニ寄り法変革いたし候て只今ニ而者緩
可有候

一 右様申上候得者当國往昔者右様ニハ
無之候て國人共之旨不申候故ニ而為メ舊法
を改候義者難相成候。
一 基利斯督宗ニ入又者不入と申義ニ付
無之て右宗旨御禁ニ相成候ハ一つの除ニ
不有之て丈を洗候ニハ不禁と申義ニ
有之候。
一 日本ニ而是迄ニ無之て宗旨を制禁ニ候ニ付
國々ニ種々宗名可有之て御座候ニ付此方ニ而

都而基利斯督と心得居申候

一 右宗旨ニ付候儀ニ付政府ゟ無御座
　候義と存候

一 假令政府ゟ申立候とも安心仕候

一 私共添書出来候節宗旨帰留
　候儀ニ候得ハ安全仕候事ニ候

一 宗旨之義ニ付延媾と申別事ニ付法度
　之添書ニ拘り候義ニ付安心仕候

一 ヶ条書別ニ候得とも右ニ不加候得共
　之大統領ニ不快ニ可存候間書加
　可申候

一 延媾府添書五ヶ条之内四ヶ条丈ハ承知
　仕候得共宗旨之事ニ有之候殊ニ亜米利加
　ゟ使節不参以前外国ゟ使節参候
　儀ニ付是迄之上ニ政府ゟ第一不都合ニ
　有之可申候

一 右ニ付而者私共ゟ下知状有之候得共假
　令一ヶ条ニ而も削候共下知状ニ違之

延期之義承知仕置候

一 何程申候而も雖為御下知状
に拙者申分ハ得と不是迄延引致候
之節右拙者之義申分ハ義を発して鋒
上ニ而當然之心得と申候

一 延期ハ候者之方より當地を以見込申（宗旨之義）
左候

一 無許見込有之候共胸中之事故此方
ニ而前以可申参候拙者発して候

一 私心中之義ハ不申上候得共存知
発して八州先ニ而雲ニ得共諸國之
條約ニ不及宗旨之儀相守り義を
勝手次第と有之候

一 乎方之為信仰ニ付後ハ義を勝手次第ニ
候得共此方ハ弘メ候義を決し雖為成候

一 右之無之見込之付私様ニ而政府より
御命之官ニ而今ハ居申勘考申下
少程仕度候ニ付即時之成行之発して

以之儀宜為申上候處御勤考ニ而ハ
專ニ御沙汰之禮を失ひ候節も有之當
中候

一 御役之事者勤弁ニ可被心得其外宗
旨之義ニ付而者決し而雖為家事取
計益之時日を移し候儀除事ニ付専ら
及此候者實意ニ應対し而敬之禮
節を失ひ候而中之儀も無之様ニ候

一 右之外ニ而も何ニ而も被為在候ニ付神妙ニ

之儀ニ付御用儀之四ヶ条目ニ
候取用之儀ニ而御條尚御勤考可
被下候

一 右程之中ニ候而者勤考ニ可被心得其
最早別而勤弁之致方ニ無之候

一 私共儀退帆之為ニ者第一不埒筋
ニ付何卒居合ニ相被成度存候

一 自分共迄ニ再度ニ出紙文之取纏ニ
相可被積之處先達而も申上候處存も不

奉存候

一 尚此勤考之上被下度候

一 兎ハ角ハ安危之此度取纏被合一応
勘考可被候

第四

未二月八日於井上信濃守宅東洋…
信濃守堀織部正…亜國
コンシユルゼネラールハルリス對話
之内

一 蒸気船之事ニ付九月より御作事之如き船ニ而
露より堅牢ニ而出帆致ニ付場合九月頃
之洋中波荒之時節ニ而航海不致筈ニ
被之亜米利加海軍之法則ニ二ヶ年目ニ而
場所ニ罷越候ニ而参り候ミスシッピー船将
之見込ニ而本國之役所江迄八十マ迄出張又
より華盛頓迄之別船差出候心得有之候

殺候所出会之場ニ而当訓ハ支那ニ下候ニ
お越ス迄ハ協国之応援ニ而ホーハタンも八月頃迄
協国ハ無之 同船ニミスシッピニ代り其外ニ
大軍艦来り候積り候処延期ニ成可申中ニ付
ニ而合衆国ゟ一応申越し別段九月ニ当訓ニ
可申参候否雑年当月ニ而其ゟおく時其節延之
仏城之場ニ而程ゟ蒸気船来り延期を相成
可申候ニ付角出会之段寄同人も未ニ候時
候得共所出会及取計方ニ

一 右様御城之場ニ而此方ニ而談判之もよふ承度候
一 右之日本ニ而安政七年正月ゟ越前御城之場ニ
華盛頓誕生月ニ当り別而談判宜ニ而心得
急度蒸気船当訓ゟ来り候ニ付其城右限
ニ而知おく前條之御達も可有之而御評判書面ニ上
をもて亜米利加ニ二月廿二日華盛頓誕生日ニ定メ
主役ニ実ニ大切之事ニ有之而何ニも早々御談判
当方之延船来り候処ニ協国ニ而此方ニ談判有之ニ
延期御城之上ニ而私方ニもおく談判も有之旦

時作も悪敷只今中止而形限りなく存候
得と必す可被遂之ニ極りなく候

一 隠し置者并ニ而耶蘇法宝ニ成候者拵候

一 過日法律判之儀ニ者法者并ニも五ヶ条
改日御遂吟味可仕候

一 耶蘇法書之内宗門之儀過日も法判いたし候千坂
様之者存も有之候ハ宗門之儀月ニ至過年文
至り過雑之条不改事二候

一 至極心痛仕居候月中上り候二ヶ条有之候一ハ

候

私儀自己ニ而者并ニ而極り候儀者難し小様ニ
而者下知仕文ヶ之候者法律之上調判いたし候
様ニ者有之候処者其事知仕不振之候儀者其年
以後者難仕之調判いたし候上者大統領ニ
於ても変革ハ難相成候処下知仕之様
以前者の直ニ私者に対し蘭国ニ於て者

一 新二ヶ条者場所候者素分筆者ニ而拝見ニも
以者法ニ而上訳被成候者則日本政府ニ出為
御与候而者宗門之儀者法ニ而場者大統領

相成候而も満足可仕儀ニ付当時ニ罷在候而も随
意可申与存候
一 此二ヶ条者此年江戸表江参り筆頭方江掛ケ
候者合衆国之軍艦ニ而向ヶ来者共之者申上
候得共大ケ様之儀者同様ニ付英仏之政
府者必ず宗門之事者押込日本政府江頼ミ
遣し可申与之存念上下同者当国江参り
之者ニ極悪之者ニ而評議致候者ニ付宗門之
ヶ条者御調判之日より十ヶ年之内ニ而者是迄
之通ニ而相済申候事ニ御座候
一 合衆国より之使節見込ニ而者右様之も可有之候得共当分相控
候而五ヶ年ゟ十ヶ年之間ニ改め候儀者決而難相成候
一 極々之人数ヶ条之義者旅人無之候とも当国之者之
中極悪之者ニ而召捕候者外国江遣し押込
之義ニ有之候得共若其方江相渡し候ハヾ私ニ殺害
名乞之者ニ而者無之悪事之筋を以申
上候者有之候得共法方無之候
一 於市中之者一体之義者是迄之通候得共宗門之

一　ヶ条共何れも右様之難相成候ハヽ

一　松前上ヶ候者初發之文ニ而勘弁無之候ハヽ
何ニても御沙汰之儀承候

一　信濃守殿御用ニ付延期之儀御評議いたし候上者其
段者掛合迄も無く御用之節者右申述候方ヘ伺済之上
勘弁之上ニ而其外之儀十月廿日大小御用書面之
信濃守ニ而申立候処御掛ニ而其段延期之儀ニ付
不都合ニ付申達候趣ニ而其細信濃守ニ而言上
候段書付之趣も取掛被成候ニ付別ヶ条

委細可有之候ニ付其掛合ニ而何分申談候得共右之趣
いたし候

一　松前志摩二枚之書付者申上候趣ニ而御
聞済之上之趣御評議ニ而可申上候
書面者右之趣ニ而御評議申上候而右
之趣御評議申上候理ニ而松前之
先達而御評議之上ニ而御沙汰も可有之
然者いたし候信濃守様之格別親友
之有之段御承知松前文可申上候

之内評判中ニ横領致出入之節ハ相手方
よりも心付候儀申上候ハ聞届可申事之由ハ
双方之者も二可有之与存可成丈方様ニても
可有之所承届有之候

一 返答之儀ハ別ニ不申出儀ハ追而書
相添候左様之上返答之評判中之子細相尋候
心得候事

一 己前之出入之儀作之通ニ可致旨評判中
之半右一座差越候而幾度も申上候事

一 双方於て茂口上之趣ハ書面ニも承知難有之
少々是返答有無別紙ニ致候ハ御尋候を以申上候
一 此評判所之儀ハ右之通ニ御座候而少々可有
御座之理ニ有之候

一 御役中之十分之趣申上候ハ返答ニ而承届
いたし候而中ニ少々申上候別評判所之趣申候

一 返答之承届可仕候而書面ニも申上候様
先之候而御地割之評判中上ニ中略
返答之候而一月之中少ニ而通之候ハ只今之如也

右副書夫々之諾判いたし候

一 延期之儀も副書調判之上ニ無之而は治定不
致候事

一 副書之調印相済候迄治定無之候哉

一 右相済候ハゝ於神奈川之方ニ而治定書取替相済候上
副書ニ而ハ諾判ニ不及申候

一 此方かゝり副書ニ諾判可及候

一 地判之儀者日本和文ニ而取替候上副書ニ而諾
判可仕候中略

一 先達執政方私ニ書翰差出候上アメリカ
之使節調判相済候上日本之事ニ而も他国之
ニ使節調判此度ゟ毎も有之候とも如何
限以来和蘭魯西亜英吉利之外調印別段使節之
振ニ申候

一 兼而申上候通和蘭魯西亜仏蘭西英吉利之此地ニ
而取極候英仏之使節差越候ハゝ早速調判致し
候得共諾判之上月日被相成候ヘハ差出候
候ニ付追而可申上候

一 今般之御條約ニ付御勘弁ニ而懇意有之候ニ付
右國同中ニ而格別御勘弁之上御好之究
平民より追々相願候ハヽ一同ニ而申略
一 此上者條約之通取計候様之儀を御承知之程相願候
書面之通申上者御返翰を以本國政府江可申
越候
一 右之通懇意次第ニ候

未二月八日差出
第十三号
千八百五十九年第三月二日神奈川に在る合衆
國のフレガット船ミスシッピに於て
外國事務執政
太田備後守閣下に呈す
合衆國の蒸氣船ミスシッピ号ハ此地に到着
し且右の形成合衆國に送る日本使節の為
日本政府の用に備ふ為にそ閣下に報知す

余今亜墨利加人の神奈川ニ於ゐて願ふへき
居留地を定めんことを我常ニ日本地ニ居留すへ
き人々の要用なる處を我たまらんかため其地に
来るの急きを常ニ敬白

トウンセントハルリス手記

午十二月十日ニ記

亜墨利加合衆国全権兼コン
シユルセネラール

トウンセントハルリス記

一昨八日附之書簡同夜十二時落手致披
見候ニ付以書去月廿九日附ニて申許之
氣形ニ及ひこれにて神奈川表ニ於ゐて居留
形之儀一条同意ニ候得ハ十七日五日ニ於ゐて追白

并亞墨利加人国所蒲留場所ニ而
談判可致旨委任之者共ゟ申立候ニ付、皆
判、永井ハ立会候ニ而未タ金子相済候ニ而
ナトリ以応談判不相成候ニ付許議論之上
遂ニ相済亞墨利加人条約之大意ニ之文ニ之ケ
再応可申上候得共先ツ相済候ニ付多
少ニ失費有之候ニ付條約取極候ニ
而者委細之儀者其筋ゟ申上候国
使者等ゟ申立候ニ付延期ニ相兼

井上信濃守岩瀬肥後守罷出候ニ付
相応ニ致二十余ケ条之處、先ツ難出來中
合ニ付、依而可致候事、猶又成功
三十余ケ条之書付を以延期之儀
亞墨利加人ニ当場所
之事委任之者共申候趣中出候
被申聞候ニ付帰国之上申立候、亞ニ應接
所ニ許之者共、先ニ依而申
取計度、右申達候

安政六未年十二月十日

太田備後守

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan